

施設一体型小中一貫やまと学園の新設に先行した4小学校の再編時期と再編場所の決定内容について、教育委員会による保護者説明会が開催されました。

決定内容について

※詳細は「かわら版vol.11」をご参照ください

●再編の時期 → 令和7年4月1日

できるだけ早期の再編を望む声や複式学級のカリキュラム調整期間について検討され、令和7年4月1日と決定されました。

●再編の場所 → 岩田小学校

スクールバス運行時の安全性や学習環境・施設の状況について検討され、現在の岩田小学校の位置と決定されました。



保護者説明会でいただいたご質問やご意見について紹介します。

Q. 小中一貫とすることによる効果は何があるのか。また、どのような課題があって、それをどう解決していくのか。

A. 学習指導要領の改訂によって、小学校にも英語科やプログラミング教育が導入されるなど、小・中学校の教員がこれまで以上に連携を図りつつ、一貫性、継続性のある学習指導に取り組むことが求められています。また、児童が小学校から中学校に進学する際に、新しい環境での学習や生活に不適應を起こす、いわゆる「中1ギャップ」が指摘されています。小・中学校を通じた9年間の学習指導や生活指導に連続性が生まれることによって、中学校への進学に不安を覚える児童の減少につながるといった効果も期待できます。

Q. 再編場所が三輪小学校・岩田小学校のどちらになっても施設的には問題がないということか。

A. 空き教室等の状況は同程度ですが、スクールバスの学校敷地内での乗降スペースや周辺道路の状況を考慮すると、岩田小学校の校地がより安全であると考えられます。

Q. スクールバスはどれくらいの規模・台数を想定しているのか。また、安全対策はどうするのか。

A. スクールバスの対象児童に関する事など、細かい部分は今後の通学部会で協議することとなります。協議に当たっては、他自治体の先進事例等を参考にしながら検討していきます。

Q. 4小学校が1つになった場合の児童数はどれくらいを想定しているのか。

A. 200人程度で1学年1クラスを想定しています。なお、年によっては2クラスとなる学年も想定されます。

Q. 急に人数が増えたときの子どもたちに対するメンタル面のケアはきちんと考えられているのか。少ない人数だから主張できていた子が主張できなくなり、教職員の目も行き届かなくなる。

A. 再編（統合）の際には加配制度※1を県に要望するとともに、市独自の光っ子サポーター※2も活用するなど、急な変化に対するケアや支援体制について考えていきます。

※1 教育計画や年間指導計画の作成、学校環境の整備など、適切な学習指導や生活指導を充実させるため、加配教員を統合前後に配置するもの

※2 一人ひとりの児童生徒が学級集団の中で生活習慣・学習習慣を確かに身に付けられるよう、きめ細かな指導体制を充実し、学級の安定化を図ることを目的として配置される補助教員

Q. 1クラス何人くらいになるのか。現状は児童の人数が少ないから先生の目も行き届いていると思う。例えば、夏場に熱中症など児童の異変に気付きにくくなるのではないかと心配である。

A. 1クラスが30人を超えるクラスも想定されますが、補助教員の配置等により、できるだけきめ細かな指導体制に努めたいと考えています。一方で、社会性やコミュニケーション能力をはじめ、「協働的な学び」の中で育まれるものもあり、集団の中での経験も大切にしていきたいと考えています。

Q. 親は人数が少ない方が先生の目が行き届いて良いと思っている。先生の人数も1校分の人数をあてがうことになるのか。また、先生の業務負担も考慮してほしい。

A. 学校運営においては、基本となる教職員の数が決まっていますが、補助教員の配置等により体制の充実を図っていきたいと考えています。準備委員会では、これから社会を形成していく上で必要不可欠な社会性を子どもたちが身に付けるには、大人がそうした環境を整える必要があるとご提言いただいており、一定規模の集団が確保される環境も重要であると考えています。

Q. それぞれの小学校の授業の進み具合など異なると思うが、どう擦り合わせていくのか。

A. 複式学級のこともあるため、教育課程部会において、これから1年半ほどかけてカリキュラムの調整を図っていきます。

Q. 再編後の授業の調整などはあるのか。

A. 基本的には、再編までに調整は完了する想定です。

Q. 再編に当たって、現在使用している制服や帽子、体操服はどうなるのか。

A. P T A部会で具体的な協議が進められる内容となりますが、例えば、現在使用している物品については引き続き使用できるようにするなど、経過措置も考える必要があると認識しています。

Q. 見守り隊が通学時に付き添っているが、その活動はどうなるのか。

A. 通学部会と地域部会で協議される内容となりますが、見守り隊や保護者の方々にも部会に入っていたくなどしながら、相互に連携を図りつつ協議を進めていきます。

Q. 4小学校が1つになることはいつ決まったのか。

A. 施設一体型小中一貫やまと学園の新設までの間の「協働的な学び」をどのように保障するかが課題となっており、このことについても、準備委員会では協議が進められてきました。最終的に、小学校間の合同学習を日常化していく方法と学園の新設に先行して小学校を再編する方法の2つが比較・検討された結果が、今年2月に報告書として提出され、これを受け、市において、学園の新設に先行して4小学校を再編することを決定しました。これまでの流れについては、その都度、かわら版等でお示ししてきたところです。

Q. 4小学校を1つにするのではなく、三輪と岩田の2小学校で再編した方が子どもの変化やスクールバスの台数などの経費など、行政と児童双方にとって良いのではないのか。

A. 準備委員会の中でそのようなご意見もありましたが、学園の新設時にさらに再編を経験する方が子どもの負担になる、仲間づくり（集団づくり）という面でも、一度に4小学校を再編の方がよい、ということから、4小学校の再編を選択しました。

Q. 子どもによっては最大で3回も移動がある。子ども自身の意見を尊重すべきだと思うが、4小学校全ての児童と保護者に対してアンケートは取ったのか。施設一体型やまと学園も同様に、実際に通う子どもにアンケートを取って決めるべきだった。

A. 昨年度、各地域で説明会を行ったほか準備委員会やワークショップでは保護者の代表の方にもご参加いただいております。全体に対するアンケート等は行っていないが、子どもの学びを第一義に考え、子どもに関わる保護者、教職員、学校運営協議会、地域等で構成した組織である準備委員会において意見を聴取してきたところです。

<その他のご意見>

スクールバスがどのようなルートを通るのか、など保護者が一番気にしているところだと思う。共働きの保護者も多いので、負担がかからないよう検討してほしい。

かわら版がメインの情報源となる方たちにも丁寧に説明をしてほしい。

子ども、保護者、地域にとってより良い学園となるよう進めてほしい。

令和7年度からの施設分離型小中一貫やまと学園の開始に向け、決めておくべきことが多数あるが、委員の中には令和10年度スタートという認識をお持ちの方がおり、委員の中でも認識のズレが生じているように思われるため、「令和7年度」ということを強調してほしい。

教育委員会や学校側から委員に向けて情報を提示しないと一般の委員には理解が難しいことがある（教職員の定数など）。